

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠して作成

アレルギー性疾患治療剤

アゼラスチン塩酸塩錠0.5mg「TCK」

アゼラスチン塩酸塩錠1mg「TCK」

《アゼラスチン塩酸塩錠》

AZELASTINE HYDROCHLORIDE

剤形	錠剤(糖衣錠)		
製剤の規制区分	該当しない		
規格・含量	錠0.5mg：1錠中にアゼラスチン塩酸塩を0.5mg含有する。 錠1mg：1錠中にアゼラスチン塩酸塩を1mg含有する。		
一般名	和名：アゼラスチン塩酸塩 洋名：Azelastine Hydrochloride		
製造販売承認年月日 薬価基準収載 ・発売年月日		錠0.5mg	錠1mg
	製造販売承認年月日	2013年 6月18日	2013年 6月18日
	薬価基準収載年月日	2013年12月13日	2013年12月13日
	発売年月日	2011年 6月	1994年10月 6日
開発・製造販売(輸入)・ 提携・販売会社名	製造販売元：辰巳化学株式会社		
医薬情報担当者の 連絡先			
問い合わせ窓口	辰巳化学株式会社 薬事学術・安全管理部 TEL:076-247-2132 FAX:076-247-5740 医療関係者向けホームページ http://www.tatsumi-kagaku.com		

本IFは2013年6月改訂(第8版)の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器情報提供ホームページ <http://www.info.pmda.go.jp/> にてご確認ください。

I F 利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和63年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、I F と略す）の位置付け並びにI F 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成10年9月に日病薬学術第3小委員会においてI F 記載要領の改訂が行われた。

更に10年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成20年9月に日病薬医薬情報委員会においてI F 記載要領2008が策定された。

I F 記載要領2008では、I F を紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF等の電磁的データとして提供すること（e-I F）が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版のe-I F が提供されることとなった。

最新版のe-I F は、（独）医薬品医療機器総合機構の医薬品情報提供ホームページ（<http://www.info.pmda.go.jp/>）から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-I F を掲載する医薬品情報提供ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせてe-I F の情報を検討する組織を設置して、個々のI F が添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008年より年4回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、I F 記載要領の一部改訂を行いI F 記載要領2013として公表する運びとなった。

2. I F とは

I F は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はI F の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたI F は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[I F の様式]

- ①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。
ただし、添付文書で赤字・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②I F 記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「I F 利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

[I F の作成]

- ①I F は原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②I F に記載する項目及び配列は日病薬が策定したI F 記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとのI F の主旨に沿って必要な情報が記載される。

④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。

⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領2013」（以下、「I F 記載要領2013」と略す）により作成されたI Fは、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[I Fの発行]

①「I F 記載要領2013」は、平成25年10月以降に承認された新医薬品から適用となる。

②上記以外の医薬品については、「I F 記載要領2013」による作成・提供は強制されるものではない。

③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはI Fが改訂される。

3. I Fの利用にあたって

「I F 記載要領2013」においては、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体のI Fについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、I Fの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やI F作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、I Fの利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、I Fが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、I Fの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

I Fを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。I Fは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、I Fがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

（2013年4月改訂）

目次

I. 概要に関する項目	1	2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）	20
1. 開発の経緯	1	3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	20
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1	4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	20
II. 名称に関する項目	2	5. 慎重投与内容とその理由	20
1. 販売名	2	6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	20
2. 一般名	2	7. 相互作用	20
3. 構造式又は示性式	2	8. 副作用	20
4. 分子式及び分子量	2	9. 高齢者への投与	21
5. 化学名（命名法）	2	10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	21
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	2	11. 小児等への投与	21
7. CAS登録番号	2	12. 臨床検査結果に及ぼす影響	21
III. 有効成分に関する項目	3	13. 過量投与	21
1. 物理化学的性質	3	14. 適用上の注意	21
2. 有効成分の各種条件下における安定性	3	15. その他の注意	22
3. 有効成分の確認試験法	3	16. その他	22
4. 有効成分の定量法	3	IX. 非臨床試験に関する項目	23
IV. 製剤に関する項目	4	1. 薬理試験	23
1. 剤形	4	2. 毒性試験	23
2. 製剤の組成	4	X. 管理的事項に関する項目	24
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	4	1. 規制区分	24
4. 製剤の各種条件下における安定性	5	2. 有効期間又は使用期限	24
5. 調製法及び溶解後の安全性	8	3. 貯法・保存条件	24
6. 他剤との配合変化(物理化学的変化)	8	4. 薬剤取扱い上の注意点	24
7. 溶出性	8	5. 承認条件等	24
8. 生物学的試験法	12	6. 包装	24
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	12	7. 容器の材質	24
10. 製剤中の有効成分の定量法	12	8. 同一成分・同効薬	24
11. 力価	12	9. 国際誕生年月日	24
12. 混入する可能性のある夾雑物	12	10. 製造販売承認年月日及び承認番号	25
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	12	11. 薬価基準収載年月日	25
14. その他	12	12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	25
V. 治療に関する項目	13	13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	25
1. 効能又は効果	13	14. 再審査期間	25
2. 用法及び用量	13	15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	25
3. 臨床成績	13	16. 各種コード	25
VI. 薬効薬理に関する項目	14	17. 保険給付上の注意	25
1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	14	XI. 文献	26
2. 薬理作用	14	1. 引用文献	26
VII. 薬物動態に関する項目	15	2. その他の参考文献	26
1. 血中濃度の推移・測定法	15	XII. 参考資料	26
2. 薬物速度論的パラメータ	18	1. 主な外国での発売状況	26
3. 吸収	18	2. 海外における臨床支援情報	26
4. 分布	18	XIII. 備考	26
5. 代謝	18		
6. 排泄	18		
7. トランスポーターに関する情報	19		
8. 透析等による除去率	19		
VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目	20		
1. 警告内容とその理由	20		

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

アゼラスチン塩酸塩は、アレルギー性疾患治療剤であり、本邦では1986年に上市されている。

アドメッセン錠1mgは、辰巳化学株式会社が後発医薬品として開発を企画し、薬発第698号（1980年5月30日）に基づき規格及び試験方法を設定、加速試験、生物学的同等性試験を実施し、1994年3月に承認を得て、1994年10月発売に至った。

また、アドメッセン錠0.5mgは、辰巳化学株式会社が後発医薬品として開発を企画し、薬食発第0331015号（2005年3月31日）に基づき規格及び試験方法を設定、加速試験、生物学的同等性試験を実施し、2011年1月に承認を得た。

その後、アドメッセン錠0.5mg及びアドメッセン錠1mgは2013年6月に医療事故防止のためそれぞれアゼラスチン塩酸塩錠0.5mg「TCK」及びアゼラスチン塩酸塩錠1mg「TCK」と販売名変更に係る承認を得て、2013年12月発売に至った。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

○本剤はアゼラスチン塩酸塩を有効成分とし、「気管支喘息」、「アレルギー性鼻炎」及び「蕁麻疹、湿疹・皮膚炎、アトピー性皮膚炎、皮膚瘙癢症、痒疹」に効能を有する白色の糖衣錠である。

II. 名称に関する項目

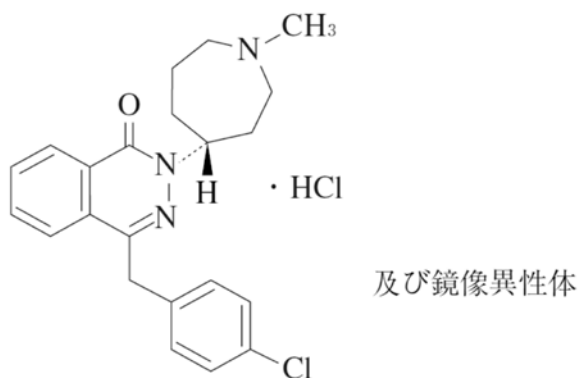
1. 販売名

- (1) 和名 : アゼラスチン塩酸塩錠0.5mg 「TCK」
アゼラスチン塩酸塩錠1mg 「TCK」
- (2) 洋名 : AZELASTINE HYDROCHLORIDE Tablets 0.5mg 「TCK」
AZELASTINE HYDROCHLORIDE Tablets 1mg 「TCK」
- (3) 名称の由来 : 一般名+剤形+含量+ 「TCK」

2. 一般名

- (1) 和名(命名法) : アゼラスチン塩酸塩 (JAN)
- (2) 洋名(命名法) : Azelastine Hydrochloride (JAN)
Azelastine (INN)
- (3) ステム : 抗ヒスタミン剤 : -astine

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式 : $C_{22}H_{24}ClN_3O \cdot HCl$
分子量 : 418.36

5. 化学名(命名法)

4-[(4-Chlorophenyl)methyl]-2-[(4*RS*)-(1-methylazepan-4-yl)]phthalazin-1(2*H*)-one monohydrochloride (IUPAC)

6. 慣用名、別名、略号、記号番号

なし

7. CAS登録番号

79307-93-0 (Azelastine Hydrochloride)
58581-89-8 (Azelastine)

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

白色の結晶性の粉末である。

(2) 溶解性

ギ酸に溶解やすく、水又はエタノール（99.5）に溶けにくい。

(3) 吸湿性

該当資料なし

(4) 融点（分解点）、沸点、凝固点

融点:約225℃(分解)

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

水溶液（1→200）は旋光性を示さない。

2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法

日局「アゼラスチン塩酸塩」の確認試験法による。



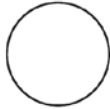


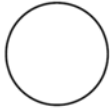
4. 有効成分の定量法

日局「アゼラスチン塩酸塩」の定量法による。

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別、外観及び性状

	外 形			色 調 剤 形	識別コード
	直径(mm)	厚さ(mm)	重量(mg)		
アゼラスチン 塩酸塩錠 0.5mg「TCK」	 6.7	 3.5	 120	白色 糖衣錠	Tu 405
アゼラスチン 塩酸塩錠 1mg「TCK」	 6.7	 3.5	 120	白色 糖衣錠	Tu AD

(2) 製剤の物性

(3) 識別コード

	本体	包装材料
アゼラスチン塩酸塩錠0.5mg「TCK」	Tu 405	Tu 405
アゼラスチン塩酸塩錠1mg「TCK」	Tu AD	Tu AD-001

(4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定なpH域等

該当しない

2. 製剤の組成

(1) 有効成分（活性成分）の含量

- アゼラスチン塩酸塩錠0.5mg「TCK」
1錠中にアゼラスチン塩酸塩を0.5mg含有する。
- アゼラスチン塩酸塩錠1mg「TCK」
1錠中にアゼラスチン塩酸塩を1mg含有する。

(2) 添加物

- アゼラスチン塩酸塩錠0.5mg「TCK」
乳糖水和物、トウモロコシデンプン、セルロース、ポビドン、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、二酸化ケイ素、ステアリン酸マグネシウム、白糖、タルク、アラビアゴム末、ゼラチン、マクロゴール、酸化チタン、カルナウバロウ
- アゼラスチン塩酸塩錠1mg「TCK」
乳糖水和物、トウモロコシデンプン、セルロース、デキストリン、ポビドン、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、二酸化ケイ素、ステアリン酸マグネシウム、白糖、タルク、アラビアゴム末、ゼラチン、マクロゴール、酸化チタン、カルナウバロウ

(3) その他

該当資料なし

3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当しない

4. 製剤の各種条件下における安定性¹⁾

●アゼラスチン塩酸塩錠0.5mg「TCK」

<加速試験>

加速試験（40℃、相対湿度75%、6ヵ月）の結果、アゼラスチン塩酸塩錠0.5mg「TCK」は通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。

試験条件：40℃、相対湿度75%、6ヵ月、PTP包装

	規格	試験開始時	1ヵ月後	3ヵ月後	6ヵ月後
性状	白色の糖衣錠	白色の糖衣錠	変化なし	変化なし	変化なし
確認試験	(1)、(2)	適	適	適	適
純度試験	(3)	適	適	適	適
製剤均一性	日局一般試験法 含量均一性試験	適	適	適	適
溶出性	局外規溶出試験	適	適	適	適
定量 (%)	表示量の	101.1	99.7	99.8	100.1
	95.0~105.0%	100.6	99.4	99.8	99.5
	を含む	100.6	99.0	100.2	100.0

(3ロット、各ロットn=3)

- (1) 沈澱反応：だいたい色の沈澱を生じる
- (2) 吸収極大：波長283~287nmに吸収の極大を示す
- (3) 試料溶液の相対保持時間約1.2のアゼラスチン酸化体を除くアゼラスチン以外の各々のピーク面積は、標準溶液のアゼラスチンのピーク面積の1/5より大きくない。また、試料溶液のアゼラスチン酸化体及びアゼラスチン以外のピークの合計面積は、標準溶液のアゼラスチンのピーク面積より大きくない。

<無包装状態での安定性試験>

アゼラスチン塩酸塩錠0.5mg「TCK」について、温度、湿度、光に対する無包装状態での安定性試験結果を以下に示す。

【温度に対する安定性試験結果】

試験条件：40±2℃、3ヵ月、遮光・気密ガラス瓶

	試験開始時	1ヵ月後	2ヵ月後	3ヵ月後	判定
外観	白色の糖衣錠	変化なし	変化なし	変化なし	◎
硬度 (kg)	3.1 (100.0%)	3.4 (109.7%)	3.7 (119.4%)	3.6 (116.1%)	◎
溶出 (%)	96 107 103 102 104 104	102 99 99 104 101 103	103 106 103 103 101 104	104 101 98 103 98 100	◎
含量 (%)	99.6 (100.0%)	99.8 (100.2%)	100.4 (100.8%)	101.6 (102.0%)	◎

()内は開始時を100%として換算した数値

(1ロット、硬度n=10、溶出n=6、含量n=3 硬度及び含量は平均値を記載)

総合評価：変化なし

【湿度に対する安定性試験結果】

試験条件：25±1℃、75%RH±5%、3ヵ月、遮光・開放

	試験開始時	1ヵ月後	2ヵ月後	3ヵ月後	判定
外観	白色の糖衣錠	変化なし	変化なし	変化なし	◎
硬度 (kg)	3.1 (100.0%)	2.8 (90.3%)	3.1 (100.0%)	2.9 (93.5%)	◎
溶出 (%)	96 107 103 102 104 104	102 105 104 103 102 103	103 105 103 99 99 103	100 98 100 96 100 96	◎
含量 (%)	99.6 (100.0%)	97.7 (98.1%)	98.4 (98.8%)	97.4 (97.8%)	◎

() 内は開始時を100%として換算した数値

(1ロット、硬度 n=10、溶出 n=6、含量 n=3 硬度及び含量は平均値を記載)

総合評価：変化なし

【光に対する安定性試験結果】

試験条件：温湿度なりゆき、曝光量60万lux・hr

	試験開始時	60万lux・hr	判定
外観	白色の糖衣錠	変化なし	◎
硬度 (kg)	3.1 (100.0%)	3.3 (106.5%)	◎
溶出 (%)	96 107 103 102 104 104	99 104 102 102 102 103	◎
含量 (%)	99.6 (100.0%)	99.6 (100.0%)	◎

() 内は開始時を100%として換算した数値

(1ロット、硬度 n=10、溶出 n=6、含量 n=3 硬度及び含量は平均値を記載)

総合評価：変化なし

●アゼラスチン塩酸塩錠1mg「TCK」

<加速試験>

加速試験（40℃、相対湿度75%、6ヵ月）の結果、アゼラスチン塩酸塩錠1mg「TCK」は通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。

試験条件：40℃、相対湿度75%、6ヵ月、PTP包装

	規格	試験開始時	2ヵ月後	4ヵ月後	6ヵ月後
性状	白色の糖衣錠	白色の糖衣錠	変化なし	変化なし	変化なし
確認試験	(1)～(3)	適	適	適	適
崩壊試験	日局一般試験法の崩壊試験法	適	適	適	適
定量 (%)	表示量の93～107%を含む	103.3 100.3 103.3	102.8 102.1 103.0	100.6 97.8 103.4	98.2 101.5 98.5

(3ロット、各ロット n=3)

(1) 呈色反応：赤色を呈する

(2) 吸収極大：波長283～287nmに吸収の極大を示す

(3) TLC：試料溶液及び標準溶液から得られたスポットのRf値は等しい

＜無包装状態での安定性試験＞

アゼラスチン塩酸塩錠1mg「TCK」について、温度、湿度、光に対する無包装状態での安定性試験結果を以下に示す。

【温度に対する安定性試験結果】

試験条件：40±2℃、3ヵ月、遮光・気密ガラス瓶

	試験開始時	1ヵ月後	2ヵ月後	3ヵ月後	判定
外観	白色の糖衣錠	変化なし	変化なし	変化なし	◎
硬度 (kg)	3.1 (100.0%)	3.3 (106.5%)	3.3 (106.5%)	3.7 (119.4%)	◎
溶出 (%)	94.4 85.6 90.8 95.8 95.1 95.0	91.0 92.3 91.5 93.0 91.8 91.1	92.5 89.0 92.5 91.7 91.7 92.3	91.5 86.5 91.4 89.4 92.0 88.6	◎
含量 (%)	97.1 (100.0%)	97.0 (99.9%)	96.8 (99.7%)	96.1 (99.0%)	◎

() 内は開始時を100%として換算した数値

(1ロット、硬度 n=10、溶出 n=6、含量 n=3 硬度及び含量は平均値を記載)

総合評価：変化なし

【湿度に対する安定性試験結果】

試験条件：25±1℃、75%RH±5%、3ヵ月、遮光・開放

	試験開始時	1ヵ月後	2ヵ月後	3ヵ月後	判定
外観	白色の糖衣錠	変化なし	変化なし	変化なし	◎
硬度 (kg)	3.1 (100.0%)	3.3 (106.5%)	3.4 (109.7%)	3.6 (116.1%)	◎
溶出 (%)	94.4 85.6 90.8 95.8 95.1 95.0	93.5 98.0 88.7 95.5 94.5 91.9	89.6 93.6 89.4 93.5 93.9 93.7	92.2 89.8 92.4 92.5 93.1 94.1	◎
含量 (%)	97.1 (100.0%)	97.5 (100.4%)	97.3 (100.2%)	97.1 (100.0%)	◎

() 内は開始時を100%として換算した数値

(1ロット、硬度 n=10、溶出 n=6、含量 n=3 硬度及び含量は平均値を記載)

総合評価：変化なし

【光に対する安定性試験結果】

試験条件：温湿度なりゆき、曝光量60万lux・hr

	試験開始時	60万lux・hr	判定
外観	白色の糖衣錠	変化なし	◎
硬度 (kg)	3.1 (100.0%)	3.1 (100.0%)	◎
溶出 (%)	94.4 85.6 90.8 95.8 95.1 95.0	94.5 97.5 93.6 95.1 92.8 95.0	◎
含量 (%)	97.1 (100.0%)	97.3 (100.2%)	◎

() 内は開始時を100%として換算した数値

(1ロット、硬度 n=10、溶出 n=6、含量 n=3 硬度及び含量は平均値を記載)

総合評価：変化なし

※無包装状態での安定性試験結果を以下のように評価した。

・評価基準

分類	評価基準	判定
変化なし	【外観】 外観上の変化を、ほとんど認めない場合 【硬度】 硬度低下が40%未満の場合 【溶出】 規格値内の場合 【含量】 含量低下が3%未満の場合	◎
変化あり (規格内)	【外観】 わずかな色調変化(退色等)等を認めるが、品質上、問題とならない程度の変化であり、規格を満たしている場合 【硬度】 硬度低下が40%以上で、規格値内の場合 【含量】 含量低下が3%以上で、規格値内の場合	○
変化あり (規格外)	【外観】 形状変化や著しい色調変化を認め、規格を逸脱している場合 【硬度】 規格値外の場合 【溶出】 規格値外の場合 【含量】 規格値外の場合	△

1999年8月20日付「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」(日本病院薬剤師会)一部改変

・総合評価

分類	評価基準
変化なし	全ての測定項目で変化なし
変化あり(規格内)	いずれかの測定項目で「規格内」の変化を認める
変化あり(規格外)	いずれかの測定項目で「規格外」の変化を認める

5. 調製法及び溶解後の安全性

該当しない

6. 他剤との配合変化(物理化学的变化)

該当資料なし

7. 溶出性²⁾

【溶出挙動における類似性】

●アゼラスチン塩酸塩錠0.5mg「TCK」

(「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン：2006年11月24日付 薬食審査発第1124004号」)

試験方法 : 日本薬局方一般試験法溶出試験法パドル法

試験条件

試験液量 : 900 mL

温度 : 37 °C ± 0.5 °C

試験液 : pH1.2 = 日本薬局方溶出試験第1液

pH4.0 = 薄めたMcIlvaineの緩衝液

pH6.8 = 日本薬局方溶出試験第2液

水 = 日本薬局方精製水

回転数 : 50rpm(pH1.2、pH4.0、pH6.8、水)、100rpm(pH6.8)

標準製剤の平均溶出率が85%を越えた時点で、試験を終了することができる。

判定基準

pH1.2、pH6.8(100rpm ラグ時間補正後)

試験製剤は15分以内に平均85%以上溶出する。

pH4.0(ラグ時間補正後)

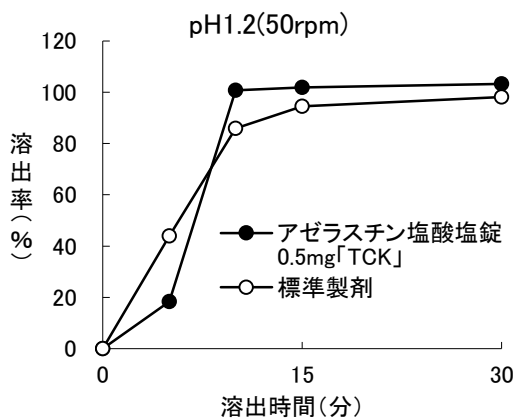
標準製剤の平均溶出率が60%及び85%付近となる適当な2時点(6.1分及び17.7分)において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率 $\pm 15\%$ の範囲にある。

pH6.8(50rpm ラグ時間補正後)

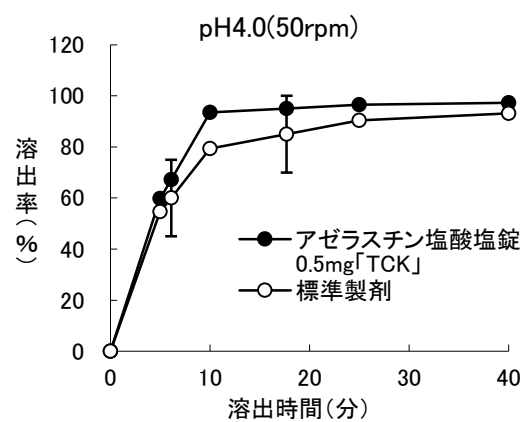
標準製剤の平均溶出率が60%及び85%付近となる適当な2時点(6分及び22.4分)において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率 $\pm 15\%$ の範囲にある。

水(ラグ時間補正後)

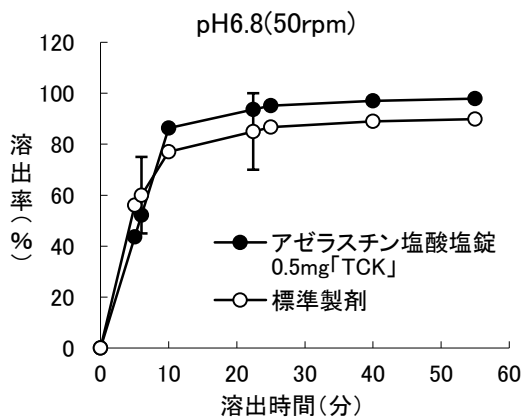
標準製剤の平均溶出率が40%及び85%付近となる適当な2時点(4.4分及び353分)において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率 $\pm 15\%$ の範囲にある。



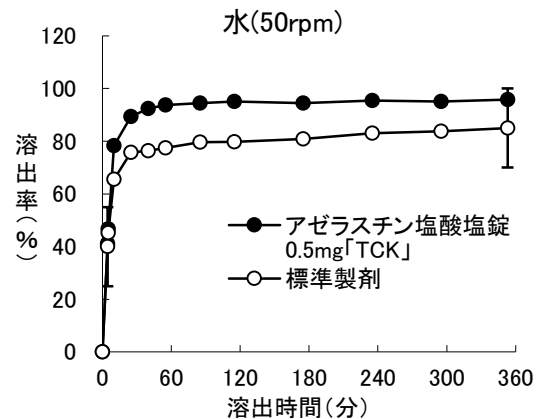
n = 12



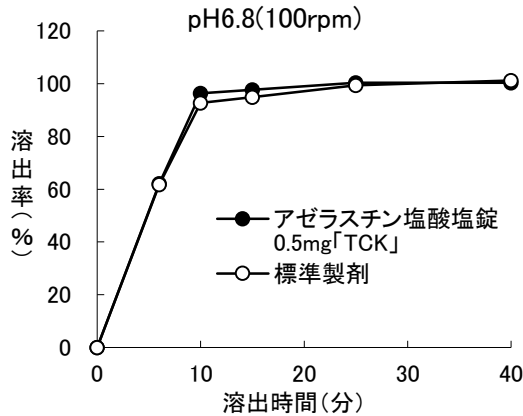
n = 12



n = 12



n = 12



n=12

○ 標準製剤の平均溶出率±15%

表 溶出挙動における類似性(試験製剤及び標準製剤の平均溶出率の比較)

試験条件				標準製剤 (錠剤、0.5mg)	アゼラスチン塩酸塩錠0.5mg「TCK」	判定
方法	回転数	試験液	採取時間	平均溶出率%	平均溶出率%	
パドル法	50rpm	pH1.2	15分	94.5	101.9	範囲内
			6.1分	60.0	67.2	範囲内
		pH4.0	17.7分	85.0	95.0	範囲内
			6分	60.0	52.1	範囲内
		pH6.8	22.4分	85.0	93.6	範囲内
			4.4分	40.0	41.1	範囲内
	水	353分	85.0	95.8	範囲内	
100rpm	pH6.8	15分	94.9	97.7	範囲内	

(n=12)

●アゼラスチン塩酸塩錠1mg「TCK」

(「医療用医薬品の品質に係る再評価の実施等について：1998年7月15日付 医薬発第634号」)

試験方法 : 日本薬局方一般試験法溶出試験法第2法(パドル法)

試験条件

試験液量 : 900 mL

温度 : 37 °C ± 0.5 °C

試験液 : pH1.2 = 日本薬局方崩壊試験第1液

pH4.0 = 酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液 (0.05mol/L)

pH6.8 = 日局試薬・試液のリン酸塩緩衝液 (1→2)

水 = 日本薬局方精製水

回転数 : 50rpm(pH1.2、pH4.0、pH6.8、水)

標準製剤の平均溶出率が85%を越えた時点で、試験を終了することができる。

判定基準

pH1.2

標準製剤の平均溶出率が60%及び85%付近の適当な2時点(15分及び30分)において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にある。

pH4.0

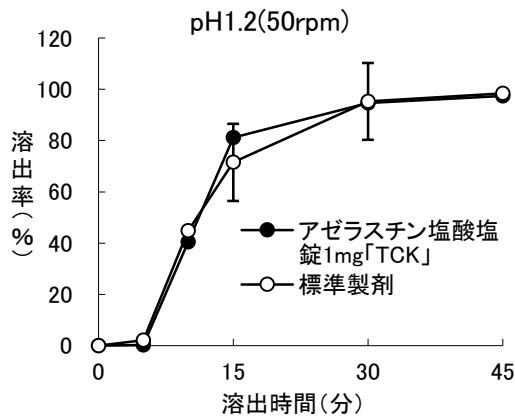
標準製剤の平均溶出率が40%及び85%付近の適当な2時点(30分及び60分)において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にある。

pH6.8

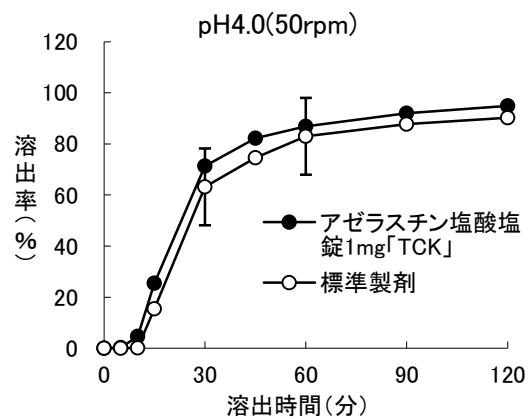
標準製剤の平均溶出率が40%及び85%付近の適当な2時点（30分及び90分）において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にある。

水

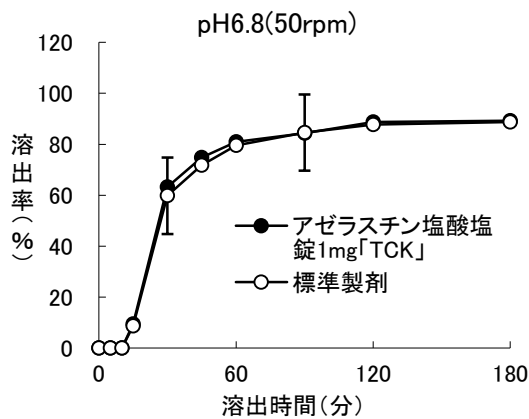
標準製剤が規定された試験時間における平均溶出率の1/2の平均溶出率を示す適当な時点（30分）、及び規定された試験時間（360分）において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±8%及び±15%の範囲にある。



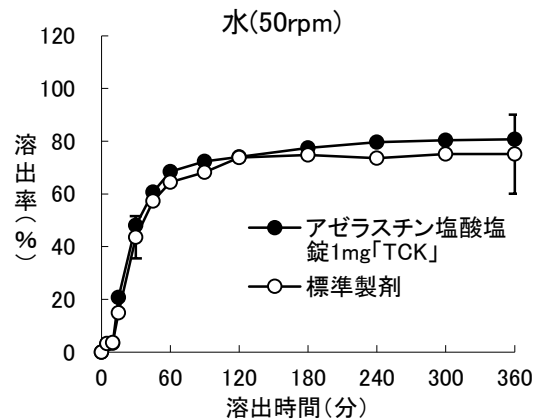
n = 6



n = 6



n = 6



n = 6

○ pH1.2、pH4.0、pH6.8、水(360分)：標準製剤の平均溶出率±15%
 ⊥ 水(30分)：標準製剤の平均溶出率±8%

表 溶出挙動における類似性(試験製剤及び標準製剤の平均溶出率の比較)

試験条件				標準製剤 (錠剤、1mg) 平均溶出率%	アゼラスチン塩酸塩 錠1mg「TCK」 平均溶出率%	判定
方法	回転数	試験液	採取時間			
パドル法	50rpm	pH1.2	15分	71.5	81.2	範囲内
			30分	95.3	94.7	範囲内
		pH4.0	30分	63.2	71.3	範囲内
			60分	83.0	86.9	範囲内
		pH6.8	30分	59.8	63.2	範囲内
			90分	84.6	84.4	範囲内
		水	30分	43.6	48.0	範囲内
			360分	75.1	80.8	範囲内

(n=6)

【公的溶出規格への適合】

アゼラスチン塩酸塩錠0.5mg「TCK」及びアゼラスチン塩酸塩錠1mg「TCK」は、日本薬局方外医薬品規格第3部に定められた溶出規格に適合していることが確認されている。

8. 生物学的試験法

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

●アゼラスチン塩酸塩錠0.5mg「TCK」

(1) ドラージェンドルフ試液による沈澱反応

判定：だいたい色の沈澱を生じる

(2) 紫外可視吸光度測定法

判定：波長283～287nmに吸収の極大を示す

(3) 薄層クロマトグラフィー

判定：試料溶液から得た主スポット及び標準溶液から得たスポットのRf値は等しい

●アゼラスチン塩酸塩錠1mg「TCK」

(1) 3級アミンの呈色反応

判定：赤色を呈する

(2) 紫外可視吸光度測定法

判定：波長283～287nmに吸収の極大を示す

(3) 薄層クロマトグラフィー

判定：試料溶液及び標準溶液から得たスポットのRf値は等しい

10. 製剤中の有効成分の定量法

液体クロマトグラフィー

11. 力価

該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

該当しない

14. その他

該当しない

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

気管支喘息

アレルギー性鼻炎

蕁麻疹、湿疹・皮膚炎、アトピー性皮膚炎、皮膚掻痒症、痒疹

2. 用法及び用量

1. 気管支喘息

通常、アゼラスチン塩酸塩として1回2mgを、朝食後及び就寝前の1日2回経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

2. アレルギー性鼻炎及び蕁麻疹、湿疹・皮膚炎、アトピー性皮膚炎、皮膚掻痒症、痒疹

通常、アゼラスチン塩酸塩として1回1mgを、朝食後及び就寝前の1日2回経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

3. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ

表中の◎：評価資料 ー：非検討もしくは評価の対象とせず を表す

phase	対象	有効性	安全性	薬物動態	概要
生物学的同等性試験	日本人健康成人男子	ー	◎	◎	非盲検化 単回経口投与

(2) 臨床効果

該当資料なし

(3) 臨床薬理試験

該当資料なし

(4) 探索的試験

該当資料なし

(5) 検証的試験

1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

2) 比較試験

該当資料なし

3) 安全性試験

該当資料なし

4) 患者・病態別試験

該当資料なし

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査・特定使用成績調査（特別調査）・製造販売後臨床試験（市販後臨床試験）

該当資料なし

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

トラニラスト、ケトチフェンフマル酸塩、オキサトミドなど

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序³⁾

アレルギーに関与するケミカルメディエーター、即ちヒスタミンやロイコトリエン類の肥満細胞などからの遊離を抑制すると共に、抗ヒスタミン作用（H₁遮断作用）、抗ロイコトリエン作用を現す。これらが総合して喘息やアレルギー性疾患に奏功すると考えられている。

(2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間⁴⁾

	Tmax (hr)
アゼラスチン塩酸塩錠0.5mg「TCK」	4.5±1.0
アゼラスチン塩酸塩錠1mg「TCK」	5.64±0.63

(Mean±S. D., n=14)

(3) 臨床試験で確認された血中濃度⁴⁾

【生物学的同等性試験】

●アゼラスチン塩酸塩錠0.5mg「TCK」

アゼラスチン塩酸塩錠0.5mg「TCK」の医薬品製造販売承認申請を行うに当たり、標準製剤又はアゼラスチン塩酸塩錠0.5mg「TCK」を健康成人男子に単回経口投与し、血漿中のアゼラスチン濃度を測定して、薬物動態から両製剤の生物学的同等性を検証した。

・治験デザイン

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン(薬食審査発第1124004号 2006年11月24日)に準じ、非盲検下における2剤2期クロスオーバー法を用いる。

はじめの入院期間を第Ⅰ期とし、2回目の入院期間を第Ⅱ期とする。なお、第Ⅰ期と第Ⅱ期の間の休薬期間は7日間とする。

・投与条件

被験者に対して12時間の絶食下において、1錠中にアゼラスチン塩酸塩を0.5mg含有するアゼラスチン塩酸塩錠0.5mg「TCK」2錠又は標準製剤2錠を150mLの水とともに経口投与する。投与後4時間までは絶食とする。

・採血時点

第Ⅰ期及び第Ⅱ期ともに投与前、投与後2, 3, 4, 5, 6, 8, 12, 24及び48時間後の10時点とする。採血量は1回につき10mL(血漿として3mL)とする。

・分析法: LC/MS/MS法

<薬物動態パラメータ>

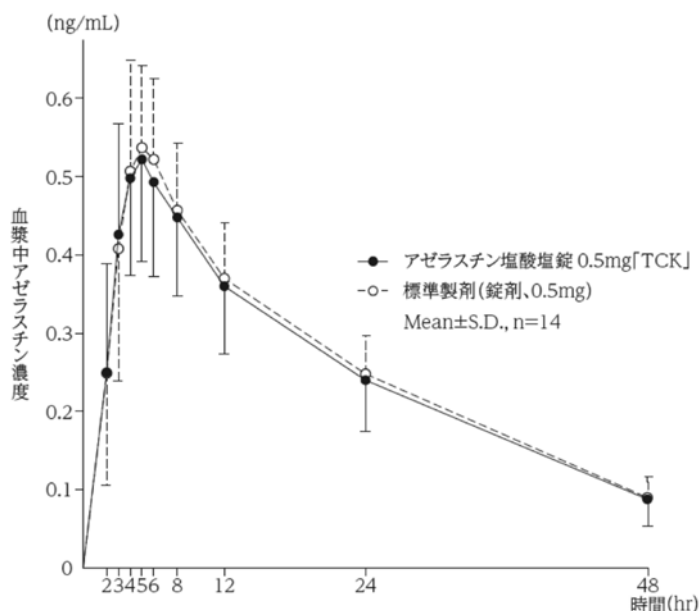
	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC _{0→48hr} (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)
アゼラスチン塩酸塩錠0.5mg「TCK」	12.17±3.04	0.55±0.13	4.5±1.0	17.30±2.63
標準製剤 (錠剤、0.5mg)	12.47±2.37	0.57±0.13	4.9±0.9	17.25±2.30

(Mean±S. D., n=14)

得られた薬物動態パラメータ (AUC、Cmax) について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、log(0.80)~log(1.25)の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。

表 アゼラスチン塩酸塩錠0.5mg「TCK」と標準製剤の対数値の平均値の差の90%信頼区間

	90%信頼区間
AUC _{0→48hr}	$\log(0.89) \sim \log(1.04)$
Cmax	$\log(0.87) \sim \log(1.03)$



血漿中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

●アゼラスチン塩酸塩錠1mg「TCK」

アゼラスチン塩酸塩錠剤であるアゼラスチン塩酸塩錠1mg「TCK」の医薬品製造販売承認申請を行うに当たり、標準製剤又はアゼラスチン塩酸塩錠1mg「TCK」を健康成人男子に単回経口投与し、血清中のアゼラスチン塩酸塩濃度を測定して、薬物動態から両製剤の生物学的同等性を検証した。

・治験デザイン

生物学的同等性に関する試験基準(薬審第718号 1980年5月30日)に準じ、非盲検下における2剤2期クロスオーバー法を用いる。

はじめの入院期間を第Ⅰ期とし、2回目の入院期間を第Ⅱ期とする。なお、第Ⅰ期と第Ⅱ期間の休薬期間は12日間とする。

・投与条件

被験者に対して12時間の絶食下において、1錠中にアゼラスチン塩酸塩を1mg含有するアゼラスチン塩酸塩錠1mg「TCK」2錠又は標準製剤2錠を100mLの水とともに経口投与する。投与後4時間までは、絶食とする。

・採血時点

第Ⅰ期及び第Ⅱ期ともに投与前、2、3、4、5、6、7、10、24及び48時間後の10時点とする。採血量は1回につき7mLとする。

・分析法：HPLC法

<薬物動態パラメータ>

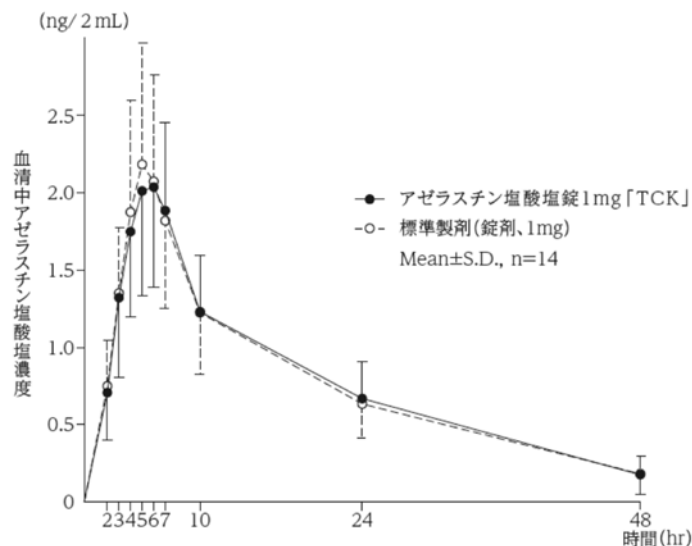
	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC _{0→48hr} (ng・hr/2mL)	Cmax (ng/2mL)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)
アゼラスチン塩酸塩錠1mg「TCK」	37.26±11.57	2.12±0.63	5.64±0.63	14.51±3.20
標準製剤 (錠剤、1mg)	36.89±12.30	2.24±0.75	5.36±0.84	14.87±2.61

(Mean±S. D., n=14)

得られた薬物動態パラメータ (AUC、Cmax) について95%信頼区間法にて統計解析を行った結果、±20%の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。

表 アゼラスチン塩酸塩錠1mg「TCK」と標準製剤との差の標準製剤に対する比率の95%信頼区間

	95%信頼区間
	±20%
AUC _{0→48hr}	-10.86 ~ 8.88
Cmax	-3.58 ~ 14.56



血清中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

該当資料なし

(6) 母集団 (ポピュレーション) 解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

- (1) **解析方法**
該当資料なし
- (2) **吸収速度定数**
該当資料なし
- (3) **バイオアベイラビリティ**
該当資料なし
- (4) **消失速度定数**
該当資料なし
- (5) **クリアランス**
該当資料なし
- (6) **分布容積**
該当資料なし
- (7) **血漿蛋白結合率**
該当資料なし

3. 吸収

該当資料なし

4. 分布

- (1) **血液－脳関門通過性**
該当資料なし
- (2) **血液－胎盤関門通過性**
該当資料なし
- (3) **乳汁への移行性**
該当資料なし
- (4) **髄液への移行性**
該当資料なし
- (5) **その他の組織への移行性**
該当資料なし

5. 代謝

- (1) **代謝部位及び代謝経路**
該当資料なし
- (2) **代謝に関与する酵素(CYP450 等)の分子種**
該当資料なし
- (3) **初回通過効果の有無及びその割合**
該当資料なし
- (4) **代謝物の活性の有無及び比率**
該当資料なし
- (5) **活性代謝物の速度論的パラメータ**
該当資料なし

6. 排泄

- (1) **排泄部位及び経路**
該当資料なし
- (2) **排泄率**
該当資料なし
- (3) **排泄速度**
該当資料なし

7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

8. 透析等による除去率

該当資料なし

VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当しない

2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

該当しない

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

該当しない

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

- | |
|--|
| <p>(1) 眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には、自動車の運転等の危険を伴う機械の操作には従事させないように十分注意すること。</p> <p>(2) 長期ステロイド療法を受けている患者で、本剤投与によりステロイド減量をはかる場合は十分な管理下で徐々に行うこと。</p> <p>(3) 気管支喘息に用いる場合、本剤はすでに起こっている発作を速やかに軽減する薬剤ではないので、このことを患者に十分説明しておく必要がある。</p> <p>(4) 本剤を季節性の患者に投与する場合は、好発季節を考えて、その直前から投与を開始し、好発季節終了時まで続けることが望ましい。</p> |
|--|

7. 相互作用

(1) 併用禁忌とその理由

該当しない

(2) 併用注意とその理由

該当しない

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状

該当しない

(3) その他の副作用

	頻度不明
精神神経系	眠気、倦怠感、めまい、頭痛、手足のしびれ
消化器	口渇、悪心・嘔吐、口内及び口周囲のあれ、食欲不振、胸やけ、胃部不快感、腹痛、便秘、下痢
循環器	顔面のほてり、動悸
呼吸器	鼻乾燥、息苦しさ
肝臓	AST(GOT)の上昇、ALT(GPT)の上昇、Al-Pの上昇等
過敏症 ^{注)}	発疹
血液	白血球増多
泌尿器	頻尿、排尿困難、血尿
その他	苦味感、味覚異常、浮腫、月経異常

注) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

その他の副作用

過敏症^{注)}：発疹

注) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

9. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。[動物実験(ラット)で大量投与(臨床用量の370倍以上)による催奇形作用が報告されている。]
- (2) 授乳中の婦人に投与することを避け、やむを得ず投与する場合には授乳を避けさせること。[動物実験(ラット)で乳汁中へ移行することが報告されている。]

11. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児又は幼児に対する安全性は確立していない。(使用経験が少ない)

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当資料なし

13. 過量投与

該当資料なし

14. 適用上の注意

薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。
(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。)

15. その他の注意

薬剤自身の味である苦味のため苦味感、味覚異常があらわれることがある。

16. その他

該当しない

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験 (「VI. 薬効薬理に関する項目」参照)

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製剤：アゼラスチン塩酸塩錠0.5mg「TCK」 該当しない

アゼラスチン塩酸塩錠1mg「TCK」 該当しない

有効成分：アゼラスチン塩酸塩 劇薬

2. 有効期間又は使用期限

使用期限：外装に表示（3年）

3. 貯法・保存条件

気密容器、室温保存

4. 薬剤取扱い上の注意点

(1) 薬局での取り扱い上の留意点について

該当資料なし

(2) 薬剤交付時の取扱いについて（患者等に留意すべき必須事項等）

「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 14. 適用上の注意」を参照すること。

患者向け医薬品ガイド：有り、くすりのしおり：有り

(3) 調剤時の留意点について

該当しない

5. 承認条件等

該当しない

6. 包装

●アゼラスチン塩酸塩錠0.5mg「TCK」

PTP包装：100錠

●アゼラスチン塩酸塩錠1mg「TCK」

PTP包装：100錠、1,200錠

7. 容器の材質

●アゼラスチン塩酸塩錠0.5mg「TCK」

PTP包装：ポリ塩化ビニル、アルミ箔

●アゼラスチン塩酸塩錠1mg「TCK」

PTP包装：ポリ塩化ビニル、アルミ箔

8. 同一成分・同効薬

同一成分薬：アゼプチン錠0.5mg／錠1mg／顆粒0.2%

同効薬：トラニラスト、ケトチフェンフマル酸塩、オキサトミド など

9. 国際誕生年月日

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

- アゼラスチン塩酸塩錠0.5mg「TCK」
製造販売承認年月日：2013年6月18日
承認番号：22500AMX00951000
(2011年1月14日 -旧販売名- アドメッセン錠0.5mg)
- アゼラスチン塩酸塩錠1mg「TCK」
製造販売承認年月日：2013年6月18日
承認番号：22500AMX00952000
(1994年3月15日 -旧販売名- アドメッセン錠1mg)

11. 薬価基準記載年月日

- アゼラスチン塩酸塩錠0.5mg「TCK」
2013年12月13日
(2011年6月24日 -旧販売名- アドメッセン錠0.5mg)
- アゼラスチン塩酸塩錠1mg「TCK」
2013年12月13日
(1994年7月8日 -旧販売名- アドメッセン錠1mg)

12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は投薬（あるいは投与）期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード

販売名	HOT番号	厚生労働省薬価基準 記載医薬品コード	レセプト電算コード
アゼラスチン塩酸塩錠0.5 mg「TCK」	120664701	4490004F1102	622066402
アゼラスチン塩酸塩錠1mg 「TCK」	109469507	4490004F2010	620946907

17. 保険給付上の注意

本剤は診療報酬上の後発医薬品である。

X I . 文 献

1. 引用文献

- 1) 辰巳化学株式会社 社内資料 (安定性試験)
- 2) 辰巳化学株式会社 社内資料 (溶出試験)
- 3) 第十六改正 日本薬局方解説書
- 4) 辰巳化学株式会社 社内資料 (生物学的同等性試験)

2. その他の参考文献

なし

X II . 参 考 資 料

1. 主な外国での発売状況

2. 海外における臨床支援情報

X III . 備 考

その他の関連資料

なし



〒921-8164 金沢市久安3丁目406番地
電話 (076) 247-1231番 代表